

2014年度 センター試験 本試験 地理 B

第1問 世界の地形と自然環境

出題範囲	大地形, 自然災害, 水, 植生・土壌, 気候
難易度	★★★☆☆
所要時間	9分
傾向と対策	例年, センター試験の地理 B の第1問では, 世界の自然環境について出題される。地形と気候, 土壌は自然地理分野の中でも, 必ず対策をしておきたい分野である。2014年度の出題傾向はこれまでと大きく変わらず, 地形や土壌の知識問題, 気候の思考問題が出題されている。湖の形成についての出題もあるが, それぞれの湖についての知識があれば正解にたどり着ける問題なので, しっかりと対策をしてここでの失点は抑えたい。

問1 1 正解は②

難易度 ★★★☆☆

解説

海洋の大地形, 特に**海嶺・海溝**の分布は頻出である。誤文は見つけやすいが, 四つの選択肢の内容すべてを理解するのはなかなか難しい。

- ① 正 海域**ア**は, ハワイ諸島の北西部にあたる。ハワイ諸島はマントル深部からマグマが上昇する地点である**ホットスポット**として有名で, ここで形成された火山島がプレート運動により北西へと移動した結果, **一直線上に点々と続く列島**ができあがった。列島のうち古くに形成されたものは, 長年の侵食と沈降により水没している。適当な文。
- ② 誤 海溝の説明自体は正しいが, 海域**イ**に**海溝は見られない**ため, この文は適当でない。この付近に浅瀬である**バンク**が広がっており, **豊かな漁場(北西大西洋漁場)**になっていることに気がつけば, この選択肢が誤りだとわかる。正解は②。大西洋地域については, 中央を縦断する**大西洋中央海嶺**をおさえよう。ちなみに, アイスランドは大西洋中央海嶺の一部をなす火山島である。
- ③ 正 海域**ウ**の南アメリカ大陸南東部には, **傾斜が緩やかな海底**である**大陸棚**が広がっている。この文は適当。
- ④ 正 海域**エ**は南極プレート・アフリカプレート・インド＝オーストラリアプレートの境界にあたり, **インド洋中央海嶺**が位置する。**海嶺**の説明も適切であり, 適当な文。

問2 2 正解は④

難易度 ★★★★★

解説

太平洋西部地域における地震分布についての問題。見慣れない図であり悩みどころの多い問題だが, **造山運動**が

活発な**新期造山帯**の分布を意識しながら判定しよう。また、世界有数の地震大国である日本を軸にすると解きやすくなる。

カ Bに該当する。日本列島は図1中で、**B**の北緯30度～45度のあたりに位置している。わからない場合は、図1の注にある「緯線は30度間隔」をヒントにしよう。この緯度帯に注目して**カ～ク**を見ると、地震発生数が最も多い**カがB**であると判定できる。**B**の北部は**環太平洋造山帯**に属し、地震発生数が特に多い地帯である。

キ Cに該当する。**C**には北緯50度付近に位置する**カムチャツカ半島**、赤道南部のソロモン諸島、南緯30度以南に位置するニュージーランドが、それぞれ環太平洋造山帯に属している。したがって、これらの地域で地震がみられる**キがC**と判定できる。

ク Aに該当する。**A**はマレー半島やインドネシアのスマトラ島など、**アルプス＝ヒマラヤ造山帯**に属す地域で地震発生数が多い一方で、北緯40度以北や南緯20度以南の地域では地震がみられない。これらから、**クがA**であると判定できる。

以上より、**カがB**、**キがC**、**クがA**となる組み合わせの④が正解である。

問3 3 正解は④

難易度 ★★★☆☆

解説

湖の成因についての問題。大きな湖の位置はわかるようにしておこう。一部ひっかけと思われるような記述も含まれているが、惑わされずに成因に関する知識から解きたい。

サ Kの**カスピ海**が該当する。カスピ海は黒海や地中海と同様に、かつての海が大陸移動によって陸に閉ざされてできたことから、**塩湖**であり、**世界最大の湖**でもある。

シ Lの**バイカル湖**が該当する。断層運動により形成された窪地が湖となった**断層湖**であり、**世界最深の湖**でもある。

ス Jの**スペリオル湖**が該当する。スペリオル湖は北アメリカ大陸にある**五大湖**の一つだが、五大湖は現在の**カナダ北東部**にかつて分布した大陸氷河による侵食の跡にできた**氷河湖**で、世界最大の**淡水湖**である。「世界最大」から**K**の**カスピ海**を連想した人がいるかもしれないが、**サ**の説明のとおり、カスピ海は塩湖である。

以上より、**サがK**、**シがL**、**スがJ**となる組み合わせの④が正解である。

問4 4 正解は③

難易度 ★★☆☆☆

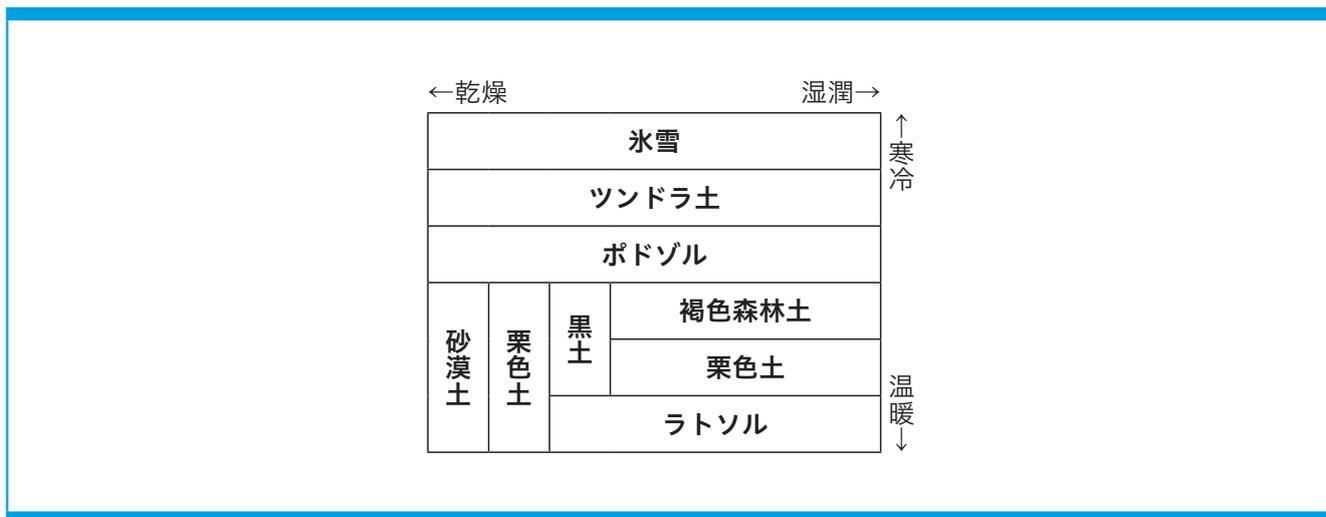
解説

気候や植生の影響を受けて作られる土壌である**成帯土壌**についての問題。各選択肢が表す成帯土壌は、ごく基本的なものであるから、確実に正解したい。図1中の**P**が示すのは**温帯気候**地域であり、日本の関東地方や東北地方なども含まれている。したがって、温帯地域に分布する**褐色森林土**の説明を選べばよい。自信がない場合は、

より特徴的な他の三つの成帯土壌を先に判定し、消去法を用いてもよいだろう。

- ① 誤 北欧などの冷帯地域に分布する土壌、**ポドゾル**の説明となっているため誤り。冷帯地域では低温のため有機物の分解が進まず、雨が蒸発せずに地中深くに浸透してしまうため、**土壌の養分が流出（溶脱）**してしまう。こうして形成される、栄養に乏しい成帯土壌がポドゾルである。
- ② 誤 **熱帯地域に分布するラトソル**の説明となっているため誤り。ラトソルは、大量に降った雨や地下水が蒸発する際、土壌の表層に鉄やアルミニウムが集積することにより形成され、酸化した金属成分が多く含まれるため赤色をしている。ちなみにラトソル分布地域ではアルミニウムの原料となる**ボーキサイト**の産出量が多い。
- ③ 正 「**褐色の層**」とあるとおり、この文が**褐色森林土**の説明として正しい。褐色森林土は暗黒色の表層に養分が集積しており、分布地域は温帯気候地域とおおむね一致する。
- ④ 誤 「腐食層がなく」「塩類の集積」などが**砂漠土**の説明となっているため誤り。**砂漠地域**には植生がないため、植物が微生物により分解されてできる腐食層が生じず、わずかな降雨や地下水は、蒸発する際に地下深部の塩類を吸い上げて地表付近に集積させてしまうため、植物の生育をより困難にさせている。

◆参考 土壌と気候関係



問5 4 正解は④

難易度 ★★★★★

解説

年平均気温と年較差^{ねんかくさ}の特徴から分布地域を判定する問題。気温変化に影響を与える海流や風、地形などについてしっかり理解しているかがポイント。中でも、**メキシコシティ**の標高が高いこととヨーロッパの**西岸海洋性気候（Cfb）**は頻出なので、しっかりおさえておこう。

R **メキシコシティ**周辺は四つの地点の中では低緯度であるため比較的温暖で、気温の年較差は小さい。この特徴に該当する選択肢は①である。

S **ダブリン**（アイルランド）周辺は、付近を流れる暖流の**北大西洋海流**が上空の空気を暖め、**偏西風**がその空

気を北欧・西欧地域へと運ぶ影響で、高緯度の割に温暖であり、年較差は小さい。この特徴に該当する選択肢は②である。

- T **リヤド**（サウジアラビア）周辺は、砂漠が大半を占めるアラビア半島の中央部に位置する。砂漠地域は比熱が小さい岩石や砂に覆われているため温まりやすく、年平均気温が高い。この特徴に該当する選択肢は③である。
- U **北京**周辺は、四つの地点の中では高緯度であるため比較的寒冷である。また、冬季は**シベリア気団**の影響で、冷たく乾燥した風が吹くため年較差が大きい。この特徴に該当する選択肢は④である。したがって、④が正解となる。なお、他にも大陸東岸に位置する北京は、偏西風の影響を受けにくいために大陸性の気候に近くなり、年較差が大きくなるという考え方もできるだろう。北京の気候が、夏は温暖で冬は寒冷であることは覚えておきたい。

問 6 6 正解は①

難易度 ★★★☆☆

解説

降水量の季節変化についての問題。X・Yの各線上で、雨季と乾季の差が激しい地点に注目すれば、選択肢は絞りがやすい。なおXは北半球、Yは南半球にあるため、季節が互いに逆になることに注意しよう。

Xでは地点dが**サバナ気候（Aw）**地域に該当する。日照時間が長い7月を中心に、海側から南西モンスーン（季節風）が吹き込んで多量の降雨がもたらされるが、1月は陸側から吹き込む北東モンスーンにより乾燥する。地点dの降水量が多いグラフは③のみであるから、③がXの7月となる。

Yでは地点aがサバナ気候地域に該当する。赤道周辺地域一帯に雨をもたらす赤道低圧帯（熱帯収束帯）は、南半球での夏、つまり1月ごろに南半球の赤道周辺地域へ南下する。地点aの降水量が多いグラフは①のみであるから、①がYの1月となる。正解は①。

残る②、④の判定については、Yの地点dに注目したい。オーストラリア南東部・南西部には冬雨が特徴的な**地中海性気候（Cs）**が分布するため、地点dにおいては1月より7月のほうが降水量は多い。先に判定した①と見比べたとき、地点dの降水量がより多くなっているグラフは④であるから、④がYの7月となる。したがって、最後に残った②がXの1月となる。陸側から吹き込むモンスーンにより、地点dの降水量が極めて少なくなっていることがわかる。

（制作：荒井有人，來住直哉）

2014 年度 センター試験 本試験 地理 B

第 2 問 世界の資源と産業，経済とエネルギー

出題範囲	農牧業，資源・エネルギー，貿易，産業概論，その他社会問題
難易度	★★★☆☆
所要時間	8 分
傾向と対策	例年，センター試験の地理 B の第 2 問では農牧業や工業，産業や資源をテーマとした問題が出題される。2014 年度は，農業だけでなく鉱山資源や貿易など工業や産業立地，経済規模など，幅広く産業に関する内容が出題されている。問 3 では鉄鉱石と非金属の産出量に関する問題があり，やや細かい知識が必要となる。それ以外は比較的得点しやすい問題であったため，こうした細かい知識を覚えておくことで高得点を目指したい。

問 1 7 正解は③

難易度 ★★☆☆☆

解説

作物と地域の特徴を考えれば比較的簡単に解ける。世界史の知識も役に立つ。

ア サトウキビはプランテーション農業により生産される作物の代表である。プランテーション農業は，発展途上国の安価な労働力を利用して大規模に行われる。17 世紀のカリブ海地域では，アフリカから連れてこられた黒人奴隷がサトウキビ栽培のため働かされていた（世界史では「大西洋三角貿易」として知られる）。したがって，要因としては B「奴隷貿易による労働力の導入」が該当する。

イ パンパはアルゼンチンの温帯草原地域である。南アメリカ地域は大市場であるヨーロッパ諸国から遠いため，18 世紀以前は牛肉などの生鮮食品を輸出することができなかった。しかし，19 世紀に入って冷凍技術が実用化され，以降は冷凍船による農産物輸送が盛んになったことにより，遠方の国々への農産物輸出が可能となった。パンパ地域での肉牛生産が盛んになったのはこの時代からである。したがって，要因としては A「生産物の保存技術や輸送手段の発達」が該当する。

ウ 収穫期の綿花は湿気を嫌うため，綿花栽培は乾燥地域で必要最小限の水を与えながら行うのが一般的である。そのため，河川から引く水量を人工的に調節するための灌漑^{かんがい}設備が必要となる。ナイル川はサハラ砂漠の東端を流れる外来河川であり，流域では灌漑設備の開発により農業生産が拡大した。欧米の援助によって完成したアスワンダム，アスワンハイダムによって河川の流量を調整していることもその要因の一つである。したがって，要因としては C「農業用水を確保する施設の開発」が該当する。なお，エジプトのダム建設はその功罪ともに頻出事項であるのでおさえておこう。

以上より，アが B，イが A，ウが C となる組み合わせの③が正解である。

問 2 8 正解は②

難易度 ★★☆☆☆

解説

米の生産・輸出上位国に関する問題。頻出事項の組み合わせで解けるので、確実に正解しておきたい。

米は自給的性格が強い作物であり、輸出されずに生産国で消費されることがほとんどである。逆にいえば、米の輸出量が多い国は、米の消費量が少ない傾向にある国（例：人口規模が小さい国、米が主食ではない国）ということになる。このことから考えると、まず輸出量が著しく多い①はタイが該当する。タイではチャオプラヤ川流域の平野部を中心に稲作が盛んだが、国の人口規模が比較的小さく食料需要が小さいため、米の輸出量はトップレベルである。

次に、米の生産量が著しく多い③と④には、米を主食とする人口大国が当てはまる。④は中国、③はインドがそれぞれ該当する。米の生産量の上位二カ国は、人口の上位二カ国と一致することを必ずおさえておこう。最後に残った②がアメリカ合衆国である。アメリカでは米よりも小麦のほうが主食として一般的であるため、生産量・輸出量ともに米より小麦のほうが圧倒的に多い。ただし、最初に説明した米の自給的性格によってアメリカも米の輸出上位国となっている。米に対して、小麦は商業的性格の強い作物である。言い換えれば、小麦の生産量の多い国々は輸出量も多い場合がほとんど（人口の多い中国、インドを除く）。問題を解く上で、手がかりの一つとしてほしい。

問 3 9 正解は④

難易度 ★★★★★

解説

産出量上位国から鉱産資源を判定する問題。鉄鉱石・原油・石炭などは頻出であるが、金鉱・銀鉱が出題されるのはやや珍しいため迷いやすい。このような形の問題に出会ったら、まずは三つの図のうち一つにだけ登場している国を探し、資源分布の特徴をつかむのが正攻法である（一部の細かい国名はわからなくてもよい）。

カにだけ登場する国：ブラジル・インド・ウクライナ・イラン

キにだけ登場する国：ガーナ・インドネシア・ウズベキスタン

クにだけ登場する国：メキシコ・チリ・ボリビア・ポーランド

カ ブラジル・インド・オーストラリアなど、面積が広く、国土の多くが安定陸塊^{りくかい}に属する国で産出量が多い。

カは鉄鉱石が該当する。本問では使わない知識だが、新期造山帯では石油産出量が多く、古期造山帯では石炭産出量が多いことも必ずおさえよう。

キ 南アフリカ共和国とオーストラリア、アメリカ合衆国に注目したい。これらの国では、かつて金の鉱山が発見されたことから、鉱山開発を目的として白人が大量に移動・流入した。キは金鉱が該当する。

ク メキシコを始めとする中南米地域に上位国が固まっていることがわかる。この地域では、大航海時代以降に入植したスペイン人によって銀の鉱山が数多く発見された。「メキシコ銀」「ペルー銀」などの用語は歴史科目でも登場する。クは銀鉱が該当する。なお中南米の鉱産資源としてはチリとペルーで産出量が多い銅もおさ

えておきたい。

以上より、金鉱がキ、銀鉱がク、鉄鉱石がカとなる組み合わせの④が正解である。この大問の解説の末尾に石炭、石油、鉄鉱石、非鉄金属の主な産出場所や移動についての図表を掲載したので、確認しておこう。

問 4 10 正解は①

難易度 ★★★☆☆

解説

韓国とフィリピンにおける輸出品目の変化についての問題。判定は難しくないが、発展途上国全体に共通する現象についてしっかりと理解しておく必要がある。発展途上国の輸出品目は、おおむね以下の流れで発展していく。

一次産品→軽工業製品・電気機械→重工業製品・精密機械

まず韓国についてみると、1980年当時は安価な労働力を売りに繊維品などの軽工業製品や電気機械の輸出が盛んであったが、その後自動車や船舶など重工業製品の生産・輸出が増加し、1996年には“先進国クラブ”とも呼ばれる経済協力開発機構（OECD）に加盟するなど、2010年現在は先進国の仲間入りをしている。

フィリピンについてみると、1980年当時は一次産品（農産物や原燃料）の輸出がほとんどであったが、その後アジア地域で他の発展途上国が経済発展した結果、東南アジア諸国連合（ASEAN）地域の労働力が割安になったため、外国に本拠を置く企業が多数参入し、生産拠点を構えた。2010年は電気機械を中心とする工業製品の生産・輸出が増加し、その一方で一次産品の輸出割合は大きく減少している。

以上から考えると、サは衣類、シは自動車、スは木材がそれぞれ入る。これに対応する組み合わせの①が正解である。

問 5 11 正解は③

難易度 ★★★☆☆

解説

世界各国の産業の現状についての問題。設問文には「産業立地について」と書かれているが、エネルギー資源についての知識があれば誤文の判定はできる。

- ① 正 サンフランシスコを中心とするアメリカ西海岸地域では、ハリウッドでの映画製作など、多種多様なコンテンツの制作が行われているので、適当な文である。ちなみに西海岸地域で映画産業が盛んになったのは、晴れやすく温暖な気候が映画撮影に適していたからだともいわれる。
- ② 正 イギリスを旧宗主国とするインドでは英語話者が多く、アメリカとの時差も半日程度あることから、アメリカ企業のコールセンターが数多く置かれている。時差を利用すれば、アメリカの深夜帯は昼間のインドに国際電話をつなぐことで、顧客からの電話に24時間対応することができるので、この文は適当である。また、インドでは理数系教育のレベルが高いため、国際的なIT企業の開発拠点も多い。
- ③ 誤 「原子力産業が立地し、発電用にウラン濃縮」が適当でない。オーストラリアのウラン、生産量は世界第3位（2014年）であるが、発電方法としては豊富にとれる石炭を活かした火力発電が大部分を占めるため、

国内に原子力発電所は一カ所もなく、原子力産業も立地していない。なお、ウランは濃縮段階で大量の放射性廃棄物を排出するため、ウランの加工は産出国ではなく輸出先の国で行うのが一般的である。正解は③。

- ④ 正 日本ではハイテク産業の研究拠点として、大都市圏を中心にサイエンスパークやリサーチパークが設置されており、多くの企業や学術機関が進出している。知識としてはやや細かい部類に属す。

問 6 12 正解は③

難易度 ★★☆☆☆

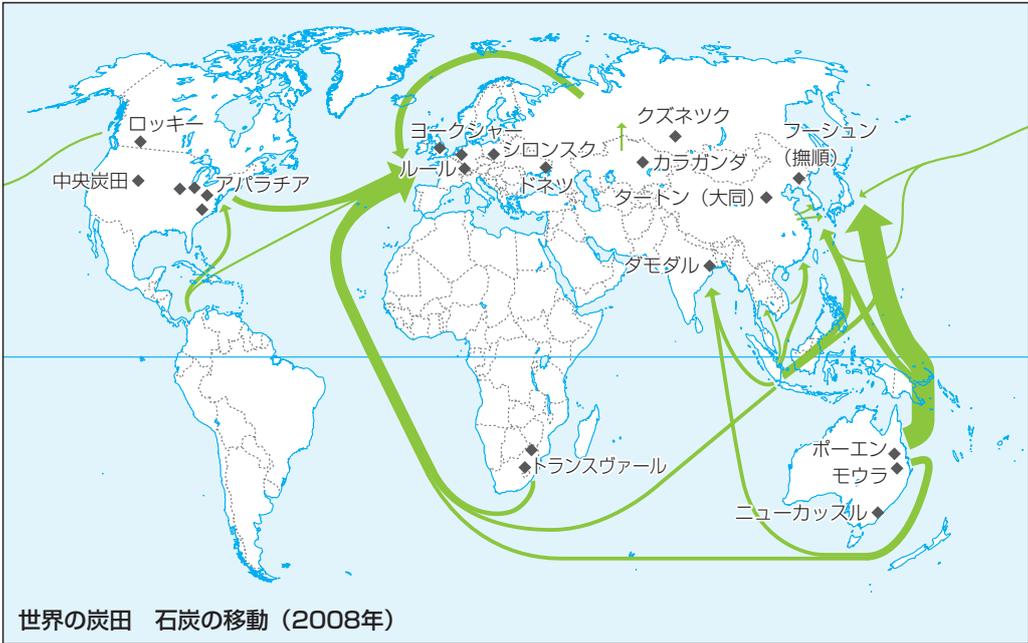
解説

株式市場の規模変動から各国の経済状況について考える問題。まずグラフの読み取り説明に間違いがないことを確認してから、背景・影響の説明を検討しよう。

- ① 正 ニューヨークは世界最大の金融拠点であるため、それに付随してさまざまな産業の拠点が集積しているので、下線部の記述は適当。
- ② 正 日本におけるバブル経済は1989年ごろに頂点を迎え、1991年ごろに崩壊した。下線部の記述は適当。
- ③ 誤 「イギリスがEU（欧州連合）の通貨ユーロを導入」が誤り。イギリスはEUに加盟した1973年以前から現在に至るまで、独自通貨のポンドを使用している。ユーロは導入していないので、下線部は適当でない。正解は③。
- ④ 正 近年、日本やアメリカなど、社会保障が手薄な資本主義国を中心に、賃金格差の拡大・固定化が問題となっている。下線部の記述は適当。

なお、図中で2007～2008年頃からの株式市場においても規模が低下しているのは、2007年のサブプライムローン問題に端を発する一連の世界同時株安（リーマン・ショック）の影響を強く受けているためである。一般に地理ではデータが比較的安定してから出題される傾向があり、今後この世界同時株安が扱われる可能性は非常に高いと思われる。これもその背景からおさえておこう。

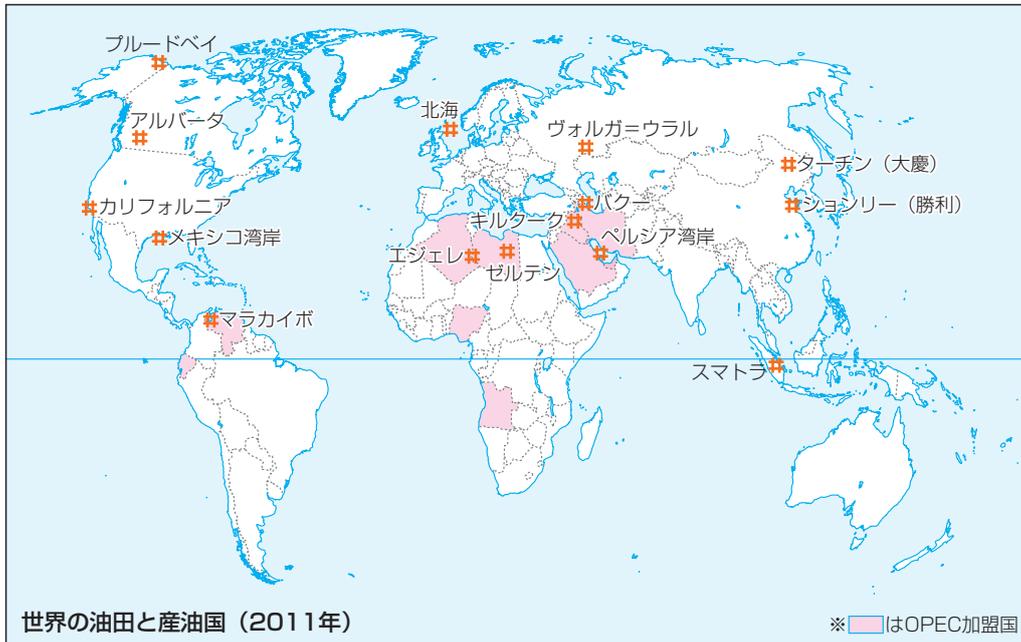
◆地図 世界のおもな炭田と石炭の移動



◆参考 世界の著名な石炭鉱山一覧

中国	フーシュン（撫順）炭田	アンシャン鉄鋼コンビナートに輸送。
	タートン（大同）炭田	
インド	ダモダル炭田	シングブームで産出される鉄鉱石と結びついて、インドの重化学工業を支えている。
オーストラリア	モウラ炭田	日本の資本により開発され、日本に輸出されている。
アメリカ合衆国	アパラチア炭田	
	中央炭田	
イギリス	ヨークシャー炭田	ペニン山脈付近に分布。
ドイツ	ルール炭田	ルール川の沿岸に分布し、ドイツの重工業を支えてきた。
ポーランド	シロンスク炭田	
ウクライナ	ドネツ炭田	クリヴォイログ鉄山と結び付き、ドニエプル工業地域の基盤となっている。
ロシア	クズネツク炭田	
カザフスタン	カラガンダ炭田	
南アフリカ共和国	トランスヴァール炭田	東部のドラケンスバーグ山脈付近に分布。

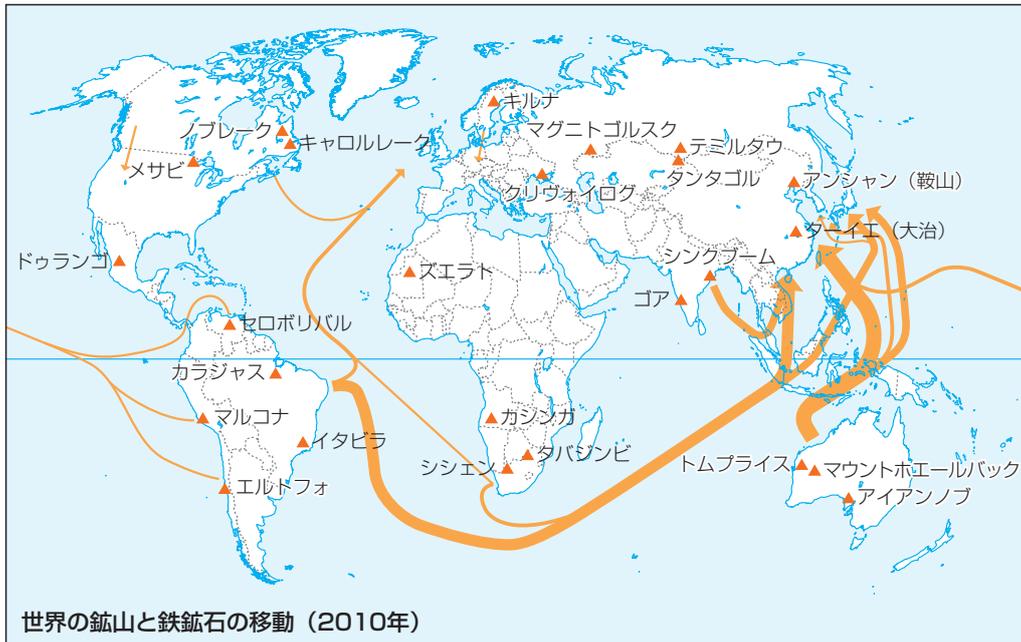
◆地図 世界のおもな油田



◆参考 世界の著名な油田一覧

中国	ターチン (大慶) 油田	中国最大の油田。北京や大連へのパイプラインが設置されている。
	ションリー (勝利) 油田	
アメリカ合衆国	メキシコ湾岸油田	テキサス州やルイジアナ州の沿岸に分布。海底油田の開発も行われている。
	カリフォルニア油田	
	フルドーベイ油田	アラスカ州北部の北極海沿岸に分布。
ベネズエラ	マラカイボ油田	
イギリス・ノルウェーなど	北海油田	
アゼルバイジャン	バクー油田	カスピ海西岸に分布している。
ロシア	ヴォルガ=ウラル油田	シベリア横断パイプラインで東シベリアやアジアへ、ドルジバパイプラインでロシア西部や東欧諸国へ送油している。
	チュメニ油田	

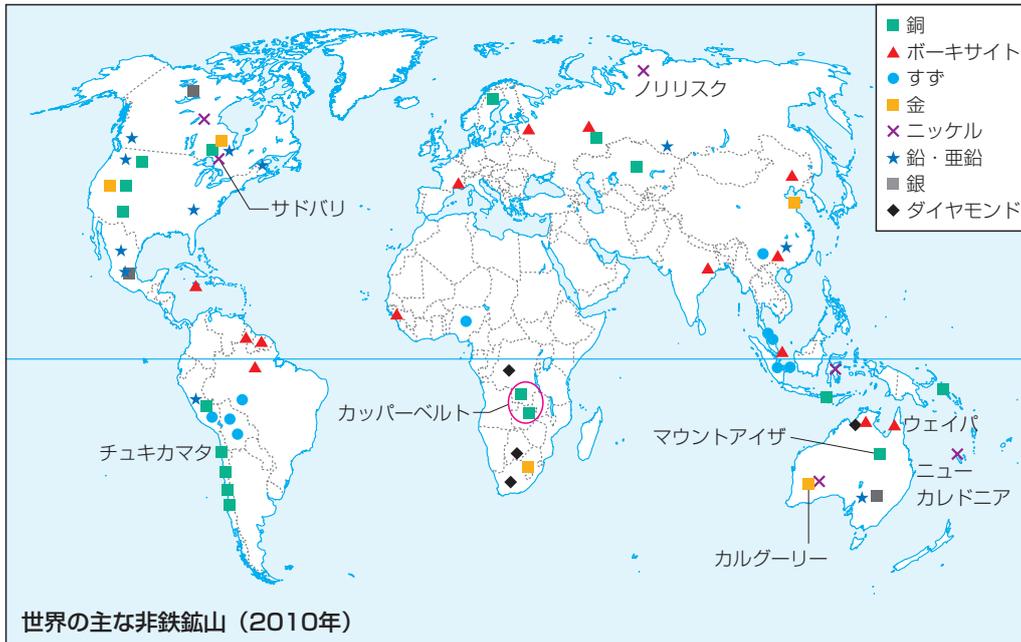
◆地図 世界のおもな鉱山と鉄鉱石の移動



◆参考 世界の著名な鉄鉱石の鉱山一覧

中国	アンシャン (鞍山)	フーシュン (撫順) 炭田と結び付いてアンシャン鉄鋼コンビナートを形成している。
オーストラリア	マウントホエールバック	西オーストラリアのピルバラ地区にある鉄山。
アメリカ合衆国	メサビ	五大湖周辺の鉄鋼都市へ輸送される。
ブラジル	イタビラ カラジャス	イタビラはヴィトリア港から、カラジャスはサンルイス港まで鉄道が敷設されており、そこから輸出している。
フランス	ロレーヌ	リンを多く含むミネット鉱が産出される。そのため、メスやナンシーでは鉄鋼業が発達した。
スウェーデン	キルナ	ボスニア湾岸のルレオや、不凍港のナルヴィクから輸出される。
ウクライナ	クリヴォイログ	

◆地図 世界のおもな非鉄金属・資源鉱山



◆参考 世界の著名な非鉄金属産地

銅	チュキカマタ	チリにある銅山。アメリカ合衆国の資本により開発された。現在は国有化されている。近年はラエスコンディエダが産出量では上回っている。
	カッパーベルト	コンゴ民主共和国，ザンビアに広がる銅鉱床地帯。ベルギーやイギリスの資本によって開発された。現在は国有化している。
	マウントアイザ	オーストラリアの銅の産地。鉛・亜鉛や銀も産出される。
ボーキサイト	ウェイパ	オーストラリアの世界最大のボーキサイト産地。
ニッケル	サドバリ	カナダの世界最大のニッケル産地。
	ニューカレドニア	フランス領の島。
金	ノリリスク	ロシアの鉱業都市。
	カルグーリー	オーストラリアの砂漠地帯に位置する金産都市。

(制作：荒井有人，來住直哉)

2014 年度 センター試験 本試験 地理 B

第 3 問 都市と生活文化

出題範囲	都市, 人口, 第三次産業, 生活・文化
難易度	★★★★☆
所要時間	9分
傾向と対策	2014年度の第3問は, センター地理Bで頻出の都市と人口に関する問題で, 総じて難易度が高い。都市の基礎的な知識から応用的な知識とその運用までを幅広く問う小問が揃っている。一般に学校の勉強では村落都市の分野は対策が手薄になりがちなので, 過去問を研究するとともにベースとなる知識を資料集などで確認しておくことが肝要である。また, 地理の勉強以外の予備知識を運用することが多いので注意しよう。

問 1 13 正解は④

難易度 ★★★★★

解説

人口に関する二つのデータから地域を判別する問題。

工業・サービス業の拠点は都市に集中し, 逆に農業地域は村落(農村)に集中するので, 農業が産業の中心となっている発展途上国では村落の人口が多く, 都市人口率が低くなる傾向にある。このことを踏まえて考えると, 選択肢は都市人口率が比較的高い①と②は先進国が多い地域であるヨーロッパかオセアニアであり, ③と④は発展途上国が多い地域であるアジアかアフリカであると判定できる。オセアニアには発展途上の小さな島国が多く存在するが, 先進国であるオーストラリアとニュージーランドの人口がオセアニア全体の約7割を占めるため, 全体の都市人口率も引き上げられている。

続いて, 人口500万人以上の都市(以降は巨大都市と呼ぶ)数に注目しよう。人口が世界第1位の中国と第2位のインドを含むアジアには巨大都市が数多く存在し, 日本では東京も巨大都市に含まれる。そのため③がアジアであると判定し, 残った④がアフリカとなる。ちなみにアフリカの巨大都市は, エジプトの首都カイロとナイジェリアの最大都市ラゴスである。①と②の判定については, オセアニアで考えるとわかりやすい。オセアニア諸国は人口が少ないため, オーストラリアの最大都市シドニーでさえ巨大都市ではない。そのため巨大都市がない②がオセアニアであると判定し, 残った①がヨーロッパとなる。

まとめると, ①に該当するのがヨーロッパ, ②に該当するのがオセアニア, ③に該当するのがアジア, ④に該当するのがアフリカとなる。正解は④。

問2 14 正解は④

難易度 ★★★★★

解説

ロンドンの都市計画についての問題だが、センターレベルとしては相当難しい。二択に絞ることはできるが、そこから先は年代ごとの細かな知識がない限り判定不能である。センター試験は時間との勝負でもあるから、まったくわからない問題に出会ったときは、勘に頼ってもいいので時間をかけずに、次の問題へ進むことが大切である。

ア ロンドンの港湾地区は、貨物のコンテナ輸送に対応していなかったため戦後衰退したが、1980年代に入ってからドックランズ地区として再開発され、高層オフィスビルやマンション・レジュー施設などが建設された。これはイ、ウと比べると明らかに年代が新しいので、「アが一番新しいから正しい選択肢は④か⑥のどちらか」という判定は必ずできるようにしたい。

イ 産業発展による都市環境の悪化を受け、自然豊かな郊外に職住近接の新都市を建設する「田園都市構想」をハワードが提唱したのは1898年のことである。

ウ ロンドン都心の過密防止ならびに戦後の復興を見越して「大ロンドン計画」が発表されたのは、第二次世界大戦中の1944年である。この都市計画は、人口密度が高い既成市街地→人口過密を抑制する郊外→都市拡大防止のため開発を制限するグリーンベルト→職住近接のニュータウンという順番で外側へ広がっていくのが特徴であり、日本の大都市圏における戦後復興計画にも影響を与えた。

以上より、イ→ウ→アの組み合わせになる④が正解である。

問3 15 正解は②

難易度 ★★★☆☆

解説

都市の性格と人口構成の関係についての問題。図やグラフがないため理解に時間がかかるかもしれないが、問われている内容は基本的である。昼夜間人口比率については、100を上回っていれば昼間は人口が流入している、100を下回っていれば昼間は人口が流出している、ということを理解しよう。

A カが該当する。中心業務地区には官公庁や企業の本社が立ち並び、昼は通勤者が多い。都心部は地価が高くなるため住宅は少なく、夜間人口（常住人口）が少ないため、昼夜間人口比率は極めて高くなる。

B クが該当する。都心への通勤・通学者が多い典型的なベッドタウンであり、昼間人口が少ないため、夜間人口比率は低くなる。また、若い家族や労働者層・学生が多く居住しているため、老年人口割合は低くなる。

C キが該当する。古くからの市街地や郊外の農地集落では、住民の高齢化が進んでいると推測され、老年人口比率は高くなる。ちなみに、昼夜間人口比率がクに比べて高いのは、大都市圏の外縁部に位置し、都心への通勤・通学に時間がかかることに加えて市街地であるため、一定の労働需要があるためと考えられる。

以上より、Aがカ、Bがク、Cがキになる組み合わせの②が正解である。

問 4 16 正解は①

難易度 ★★★★★☆

解説

商業施設と公共施設の立地についての問題。知識ではなく地理的思考力を問う良問。悩みどころは多いかもしれないが、落ち着いてそれぞれの施設の特徴について考えれば正解を導き出せる。

大型小売店：人通りが多い駅・市街地付近か、自動車での利用客を狙って幹線道路付近に立地する。

銀行：自動車より徒歩の利用客が多いため、人通りが多い駅・市街地付近に立地するが多い。

小学校：地域に住む児童の人数に立地が左右されるため、商業施設のように1カ所に集中することはない。安全な教育環境を確保するため、駅・市街地や幹線道路から離れた地点に立地する場合も多い。

以上から、全体に散らばって分布しているスは小学校である。また、幹線道路沿いに多く分布しているサは大型小売店である。地図左下のように、郊外の幹線道路沿いには、広い駐車場を備えた小売店や飲食店（ロードサイドショップ）が多く立ち並ぶ。最後に、市街地を中心に人通りが多い場所に集中して分布するシは銀行である。銀行はスーパーなどと異なり、それぞれの顧客の口座を管理している場合が多く、同業種が密集するデメリットが小さいことも理由の一つである。

以上より、サが大型小売店、シが銀行、スが小学校の組み合わせとなる①が正解である。

問 5 17 正解は②

難易度 ★★☆☆☆☆

解説

生活環境に関する二つのデータから地方名を判別する問題。当然ながら登場するデータそのものを知っている必要はないが、各データがそれぞれどのような基礎知識と関係しているのかを考える必要がある。

まず、住宅1戸当たりの延べ床面積は、地価や人口密度と関係している。地価が高い地域や人口密度が高い地域では広い家を建てるのが困難になるため、延べ床面積は小さくなる。また、1月～3月の月平均光熱費（以降は「光熱費」と呼ぶ）は、冬の気温と関係している。冬に寒くなる地域では暖房設備を使う時間が長くなり、光熱費が高くなる。

これを踏まえてPとQを見比べると、分布の傾向として光熱費がより高いのはP、延べ床面積がより小さいのはQである。したがって、より北側に位置し冬の寒さが厳しいPは北海道・東北、首都圏にあたり、地価や人口密度が高いQは関東となる。

同様にRとSを見比べると、Sの方が光熱費は高く、県ごとの延べ床面積の散らばりも大きい傾向にある。中部地方には新潟県・長野県など国内有数の豪雪地帯が含まれる。また、三大都市圏の一つである愛知県から山地が大部分を占める長野県までが含まれ、県ごとの人口密度の散らばりが大きい。したがってSは中部、Rは中国・四国となる。

以上より、Pが北海道・東北、Rが中国・四国となる組み合わせの②が正解である。

問 6 18 正解は③

難易度 ★★★☆☆

解説

消費・余暇活動に関する問題。各問題文を漫然と読んでいると手がかりをつかめない可能性もある。

- ① 正 ブラジルでは最大都市のサンパウロやリオデジャネイロを中心に、大規模なショッピングセンターが多くの買い物客を集めている。商店の大規模化は、商業が活発な先進国や一部の発展途上国に共通してみられる現象であるので、適当な文。
- ② 正 インドは世界第2位の人口大国であるため、巨大な市場を見込んだ多国籍企業が数多く進出しており、ファストフード企業も例外ではない。よって、適当な文である。なお、インドで大多数を占めるヒンドゥー教徒は教義上の理由から牛肉を口にせず、少数派のイスラム教徒は豚肉を口にしないため、インドのファストフード店にはそれら両方を使わないメニューが存在する。
- ③ 誤 「城壁に囲まれた旧市街地」が適当でない。アメリカは18世紀後半に建国され、歴史が浅い国なので、国内に城壁や旧市街地が存在しない。城壁はおもに中世以前、都市内部を守るためにヨーロッパや中国などで多く建造され、城壁に囲まれたヨーロッパの旧市街地や中国の万里の長城は、現在でも観光資源となっている。なお、城壁で街を囲うヨーロッパの都市と、城の周りを堀と石垣で囲いその外側に城下町がある日本の都市との違いも頻出事項である。
- ④ 正 短い連休が行楽シーズンとなっている日本とは異なり、フランスでは労働者が数週間程度のバカンス（長期休暇）を取得し、海辺の保養地や田舎の別荘で過ごすのが一般的である。よって、適当な文。代表的な避暑地として、フランスのコートダジュール、スペインのコスタデルソルなどが挙げられる。

(制作：荒井有人，來住直哉)

2014 年度 センター試験 本試験 地理 B

第 4 問 西アジアの地誌

出題範囲	西アジア地誌, 都市, 水, 資源・エネルギー, 交通, その他社会問題
難易度	★★★☆☆
所要時間	8 分半
傾向と対策	センター地理 B では, 例年世界の一つの地域を取り上げ, 多角的な視点による問題が出題される。2014 年度の第 4 問は, 「アラブの春」による民主化運動を反映したためか, 混乱が続く西アジアに関する出題となった。西アジアは 2 つの資源, 水と石油に注目することが読み解くカギである。また, ほとんどが砂漠気候下であるため, 都市とそれを結ぶ交易路が発達した。地誌の勉強は, 系統地理の知識を総合することにもなるので手薄にならないようにしたい。

問 1 19 正解は④

難易度 ★★★★★☆

解説

西アジア各地域の集落分布についての問題。見慣れない図であり, 直接問われている C を探すことにこだわりすぎると時間がかかるので, わかりやすいところから先に判定し, 選択肢を絞ろう。

- B ②と判定できる。図 1 を見ればわかるとおり, B の北西部は海になっているので, その部分に集落がないものが候補となる。また, 範囲の西側に首都のマークが 4 つ集まり, 集落の分布も集中していることから, **イスラエル**や**レバノン**など西アジア地域の小国が集まっている地中海東岸地域を連想できるとよい。この都市群が帯状に分布しているのは, 地中海の海岸線とそれに沿うように流れる**ヨルダン川**の周辺域に都市が集中しているためである。
- D ①と判定できる。D は砂漠に囲まれたサウジアラビアの首都・**リヤド**周辺なので, 人口密度が低いもの, すなわち集落を表す点の個数が少ないものを探せばよい。
- C ④と判定できる。イラクの**メソポタミア**地方を指し, 古代文明が形成された時代から, 大河川 (**ティグリス川**, **ユーフラテス川**) に沿って集落が分布する地方であることから, 大河川が流れる北西から南東方向に集落が並ぶ④であると判断できる。したがって, 正解は④。
- A ③と判定できる。トルコの最大都市は, ヨーロッパとアジアの境界である**ボスポラス海峡**を挟んで位置する**イスタンブール**であるが, 首都**アンカラ**付近にも人口は集中しており, 集落の密度は全体的に高い。

問 2 20 正解は①

難易度 ★★★★★☆

解説

西アジアの水資源に関する問題。西アジアには、**中緯度高圧帯**が発達する影響で年中乾燥する**砂漠気候 (BW)** 地域が多く、水資源の確保が困難である。各国の水資源についての基本的知識が必須だが、特に**ウ**の判定では表全体の傾向を捉えることも重要なポイントである。問題に登場する水資源について確認しよう。**地表水**は河川を流れる淡水や、湖・ダムに貯まっている淡水である。**地下水**は、地下深くにある**帯水層**に蓄えられた淡水である。淡水化水は、問題文中の注釈にもあるとおり、化学処理により海水から塩分を取り除いて得られる淡水である。どの水資源を使う場合でも水を汲み上げる設備や用水路が必要だが、淡水化水の場合は化学処理用の高額な設備が必要になるため、利用可能な水資源量はかなり少なくなることをおさえておこう。

各国の傾向を見る前に、まず表中の数値を縦方向に足すと、**ア**と**イ**が700を超えているのに対し、**ウ**は16と極めて少ないことがわかる。したがって、先ほど説明した特徴を踏まえて考えれば、**ウ**は**淡水化水**であるとわかる。クウェートでは利用可能な地表水・地下水が非常に少ないため、淡水化水の割合が極めて高くなっており、人口が集中する都市部では**下水処理**のシステムが発達している。

続いてサウジアラビアに注目すると、**イ**の値が極めて大きいことがわかる。**国土の大半が砂漠であるサウジアラビアには地表水がほとんど存在せず、灌漑農業などのための用水は地下深くから汲み上げて調達している**。したがって**イ**は**地下水**であると判定する。サウジアラビアにある**地下水**の多くは化石水（降水などにより補給されず、再生不可能な地下水）であるため、近年過剰な汲み上げにより枯渇が進んでいることをおさえておこう。また、イランでも地下水の利用が一番多いことが読み取れる。イランでは、汲み上げた地下水を地表で蒸発させないために掘られた地下水路・**カナート**が有名である。

最後にトルコを見ると、**ア**の値が最も大きい。トルコは地中海沿岸地域に**地中海性気候 (Cs)** 地域が分布し、4カ国の中では比較的降水量が多い。そのため地表水が多くなると考え、**ア**は**地表水**であると判定する。

以上より、地表水が**ア**、地下水が**イ**、淡水化水が**ウ**となる組み合わせの①が正解である。

問 3 21 正解は⑤

難易度 ★★★★★☆

解説

石油はエネルギー資源の中心的存在であるため、産油国の中には、**石油収入 (オイルマネー)** が国家財政の大きな柱となっている国もみられる。その一方で、他の産業を発展させ石油収入への依存から脱却しつつある国も存在する。産油国ごとの特徴を整理して理解する必要がある。

まずはサウジアラビアに注目しよう。サウジアラビアは石油輸出量が世界第1位であり、王家一族が国を治める絶対君主制のもと、経済体制の改革が遅れているため、依然として**GDP**の多くを石油収入が占めている。サウジアラビアは最も石油収入の割合が大きい**キ**である。

続いてアラブ首長国連邦をみてみよう。アラブ首長国連邦は他の2カ国に比べて人口が少なく、中東屈指の**金融**

センターであり観光地でもある**ドバイ**をはじめとして、他の産業で経済発展が著しい都市もあるため、1人当たりのGDPは極めて高く、石油収入への依存度は比較的低い。アラブ首長国連邦は**ク**である。

最後に残ったイランは、軽工業や農業が盛んなため石油収入への依存度は高くないが、アラブ首長国連邦と比べると人口が多く、経済発展も遅れているため、1人当たりのGDPは低調である。イランは**カ**である。

以上より、アラブ首長国連邦が**ク**、イランが**カ**、サウジアラビアが**キ**となる組み合わせの⑤が正解である。

問4 22 正解は②

難易度 ★★★☆☆

解説

本問では、写真そのものをしっかりと読み取る必要はない。解答の決め手は、図1中の都市**K**がどのような都市なのかを知っているかどうかであり、「なんとなく西アジアのどこかの都市」というようなあいまいな理解だと正解しづらい。

都市**K**は、問3の解説でも触れた**アラブ首長国連邦**にある都市、**ドバイ**である。**西アジア随一の金融拠点・観光地**として近年発展がめざましく、人口が増加しているため高層ビルや住宅の**建設ラッシュ**が起こっている。このことを踏まえ、各選択肢の下線部を検討しよう。

- ① 正 「国際的な金融拠点」「投資が集中」などの記述は正しく、適当な文である。
- ② 誤 「輸出指向型の工業化」「西アジア最大の自動車生産・輸出拠点」がそれぞれ適当でない。**輸出指向型工業**は**自国の安価な労働力を武器に、輸出を目的とする製品加工を行う工業**であり、ドバイの経済発展とは関係がない。ドバイで盛んな産業は金融業と観光業、そして人口増加に伴う建設業などであり、自動車生産・輸出拠点は立地していない（西アジアでの自動車生産はトルコ・イランが中心である）。
- ③ 正 「非石油部門での経済発展を目指し」「観光開発」などの記述は正しく、適当な文である。
- ④ 正 「不動産開発ブーム」「国外から多くの労働者」などの記述は正しく、適当な文である。なお、労働者が国外から雇われているのは、豊かになった国民が建設労働を敬遠することによって起きる人材不足がおもな原因であり、経済発展の恩恵を受けられる少数の国民と多数の外国人労働者との間には、大きな収入格差がある。

問5 23 正解は⑥

難易度 ★★★☆☆

解説

海上交通の要衝である海峡についての問題。特に**タ**の判定では時事的な知識が役立つ。

タ Rが該当する。**R**は紅海からインド洋へ至る航路上にある**マンダブ海峡・ソマリア周辺海域（アデン湾）**である。近年この海域での海賊行為が問題となり、2009年には日本から護衛艦が派遣されている。

チ Qの**ホルムズ海峡**が該当する。サウジアラビア・アラブ首長国連邦などの中東諸国の油田は**ペルシア湾**沿いに集中している。ペルシア湾から石油を輸送する際に必ず通るのが、ペルシア湾とオマーン湾の境目のホルムズ海峡である。

ムズ海峡。周辺国での政情不安によりホルムズ海峡の通行に支障が出た場合、日本などの石油輸入国はエネルギーの供給源を断たれてしまう。近年の対策の一つとして、アラブ首長国連邦は国内の油田からオマーン湾沿いの都市へとつながるパイプラインを建設し、ホルムズ海峡を通らずに石油輸送ができるルートを開発している。

- ツ P のボスポラス海峡が該当する。4 世紀から 20 世紀初期にかけて、東ローマ帝国・オスマン帝国の首都として長く繁栄した都市は、ボスポラス海峡に面する現在のイスタンブールにあたり、いまでもトルコの最大都市として発展している。この都市が繁栄した要因は、アジアとヨーロッパを結ぶ交通・交易の拠点であったことが大きい。

以上より、タが R、チが Q、ツが P となる組み合わせの⑥が正解である。

問 6 24 正解は②

難易度 ★★☆☆☆

解説

西アジア各国の政治体制についての問題。正解はかなり選びやすい。世界史の近現代分野とも内容が重なるが、歴史が現在の政治体制とどのようにリンクしているかに注目して理解しよう。

- ① 「アラブ民族主義の指導者のもとで近代化」「アラブ世界の中心」などからエジプトに該当する。エジプトでは、大統領ナセルがアラブ民族主義の立場から農地改革やアスワンハイダム建設などの近代化政策を行い、またアラブ首脳会議の開催を提唱するなど、アラブ諸国の盟主として旧宗主国による支配に抵抗した。
- ② 「シーア派」という部分だけで、イランと判定できる。シーア派はイスラム教の少数派である。シーア派が多数派を占める国はイラン、イラク、バーレーンなどがあるが、イランは国内のシーア派人口の多さからシーア派世界の指導的役割を確立している。シーア派指導者の運動によって 1979 年に起きたイラン革命以降、イランは反米路線を選び、現在も欧米諸国と一定の距離を取っている。
- ③ 「政教一致の王政」「豊富な石油資源」などからサウジアラビアと判定する。イスラム教ワッハーブ派の教義を国の根幹とする政教一致の王政が長年維持されており、世界随一の石油埋蔵量を誇る立場から、OPEC（石油輸出国機構）・OAPEC（アラブ石油輸出国機構）の中でも強い発言力をもつ。
- ④ 「ヨーロッパを模範とした近代化」「NATO（北大西洋条約機構）」などからトルコが該当する。トルコは 1923 年の建国以降、ヨーロッパを手本とする文字改革や一夫一婦制の導入など、政治や文化から宗教色を排除する世俗主義にもとづく改革が進められた。このような経緯から、冷戦期は資本主義勢力の支持を受けて NATO に加盟した。ちなみにトルコはヨーロッパとアジアの境目に位置するため、EU（欧州連合）への加盟が検討されているが、トルコがキリスト教国でないことなどから、実現に至っていない。

最後に、西アジアの地図とともに地勢と海峡を確認しておこう。

◆地図 西アジアの地勢と海峡



- ホルムズ海峡→油田地帯であるペルシャ湾岸地域の玄関口。
- マンダブ海峡→海賊被害あり。地中海を通る航路の要衝である。
- ボスポラス海峡→アジアとヨーロッパの境界。

(制作：荒井有人，來住直哉)

2014 年度 センター試験 本試験 地理 B

第 5 問 現代世界の諸課題

出題範囲	環境問題, アングロアメリカ地誌, 農牧業, 資源・エネルギー, 経済
難易度	★★★☆☆
所要時間	8分
傾向と対策	センター試験地理の第5問は, 例年現代世界の問題や課題が出題される。年度によってはそこにテーマが加えられていることもあるが, 2014年度は環境問題と資源問題, 社会問題が中心だった。環境問題や資源に関するテーマは頻出なので, 特に注意して学習しておきたい。社会問題は, 医療に関連した出題となっており, データも見慣れないが, 国の発展度合いに着目すれば解ける問題なので考え方をおさえておこう。

問1 25 26 正解は②と⑤

難易度 ★★★☆☆

解説

森林面積の変化について, 国ごとの原因・背景を問う問題。

- ① 正 インドネシアでは建築や家具製作の材料となる**用材**, あるいは燃料として用いられる**薪炭材**として**熱帯林が大量に伐採**され, 森林面積減少の要因となっている。適当な文である。
- ② 誤 火入れを行うと森林一帯が焼けてしまうため, 景観の保全という観点から疑問が残る。また, オーストラリアにおいて森林面積が減少し, **砂漠化**が進んでいるのは**干ばつ**などが原因である。オーストラリアの内陸部では, 広く乾燥帯の気候が分布していることからわかるだろう。よって, この文は適当でない。
- ③ 正 中国では, 過伐採による森林の減少から生じた**土壌侵食**や洪水, 河川への土砂の流入を防ぐため, 「退耕還林」と呼ばれる政策のもと, 政府の主導で傾斜地での**農業をやめて植林を進める**動きがある。適当な文である。
- ④ 正 ブラジル, 特にアマゾン盆地一帯に分布している熱帯雨林の**セルバ**では, **大豆などの作付けや放牧地の拡大**, また**ダム開発のために森林伐採が進み**, 森林面積は減少している。適当な文である。アマゾンでは1970年代から起きた**アンチョビー**魚の不漁から, 家畜飼料の代替物として大豆栽培が始まった。南米のみならず, 中国での飼料, 食用油として大豆需要増加もあり, アマゾンの熱帯林では大豆耕作地への転換が進んでおり, こうしたことが森林面積の減少を助長している。
- ⑤ 誤 **バイオマス発電**とは, 生物由来の資源を燃焼して電力を得る発電方法である。糞尿や生ゴミ, 間伐材などの**廃棄物やサトウキビやトウモロコシなどの農作物がおもに使われている**。バイオマス発電のために人工林を育成するのは採算が合わないと考えられる。よって, この文は適当でない。

- ⑥ 正 ブルキナファソは、位置を確認してもらえればわかるだろうが、国土の大部分がサハラ砂漠の南部で、**干ばつにより砂漠化**や食料問題が生じている**サヘル**（サハラ砂漠の南縁）にも位置している。そのため、森林面積が減少した理由として干ばつによる砂漠化は適当であり、適当な文である。
- 以上により、適当でない選択肢の②と⑤が正解である。

問 2 27 正解は②

難易度 ★★☆☆☆

解説

アメリカ合衆国における特徴的な土地利用に関する問題。資料集などでも写真が扱われることが多いが、これは**センターピボット方式**による円形の農地である。センターピボット方式とは、乾燥地域にみられる灌漑農法であり、回転するアームを用いて地下水の散水、肥料や農薬の散布を行う。アメリカ合衆国の**グレートプレーンズ**や、サウジアラビアなどでもみられる農法である。

- ① 誤 土地を買い取って区割りする制度は**タウンシップ制**。センターピボット方式とは関係がなく、文は適当でない。
- ② 正 センターピボット方式は、灌漑農業で一般的に生じる**土壌の塩類化**が懸念されている。さらに、地下水の枯渇やそれに伴う**地盤沈下**も問題視されている。文は適当。正解は②。
- ③ 誤 土壌流出を防ぐ方法は**等高線耕作**。センターピボット方式とは関係がなく、文は適当でない。
- ④ 誤 **フィードロット**の説明。センターピボット方式とは関係がなく、文は適当でない。

問 3 28 正解は④

難易度 ★★★☆☆

解説

世界の鉱産物の開発や利用に関する問題。露天掘りやレアメタルなどの問題は、鉱山資源に関するテーマとしておさえておきたいので、ここで確認しておこう。

- ① 正 **露天掘り**とは、鉱産物を採掘するために地表から直接掘り出す方法である。採掘の効率や安全性は高いとされているが、地表を削り取るため、森林破壊や土壌流出による**水質汚濁などの環境への負荷**が指摘されている。よって、これは適当な文である。
- ② 正 **石油メジャー**や**穀物メジャー**と同様に、鉄鉱石においても価格決定などの主導権を握る大企業は存在している。よって、これも適当な文である。
- ③ 正 クロムは南アフリカ共和国が 45.9%、タングステンは中国が 85.8%（ともに 2010 年実績）を占めているように、レアメタルの**生産国の分布は偏っている**。そのため、レアメタルの**供給量は安定しにくく、価格も変動しやすい**。適当な文である。
- ④ 誤 前半の「銅鉱価格の高騰によって財政が豊かになった」という部分は正しいが、**貧富の差が解消されている**とはいえないので、この文は適当ではない。**途上国では多くの場合、富が分配される仕組みが整っていない**

ない。センター試験では度々格差を扱った問題が出題されており、地理の重要なテーマの一つである。

問 4 29 正解は①

難易度 ★★★★★☆

解説

三つの国における廃棄物の発生量と、そのリサイクル率に関する問題。1人当たりの年間一般廃棄物発生量が高いということは、大量生産大量消費の傾向にあることを示しており、一般廃棄物発生量全体に占めるリサイクルされる量の割合は、環境意識の高い先進国ほど高くなる。

- ア 1人当たりの年間一般廃棄物発生量が最も高いため、大量消費傾向にあるアメリカ合衆国に該当すると考えられる。
- イ リサイクルされる量の割合が最も高くなっている。よって、環境意識が高い先進国であるスウェーデンに該当するとわかる。
- ウ 1人当たりの年間一般廃棄物発生量、リサイクルされる量の割合ともに低くなっている。特に後者はア、イと比べてかなり低い。このことから、環境への配慮などの政策が追いついていないと考えられる新興工業国のメキシコに該当するとわかる。

以上より、アメリカ合衆国がア、スウェーデンがイ、メキシコがウとなる組み合わせの①が正解である。

問 5 30 正解は②

難易度 ★★★★★☆

解説

三つの国における医療や経済状況に関する問題。その国の発展や、福祉政策への注力の度合いに注目して考えよう。

- カ 医療が高水準で発展しており、医療費が基本的に自己負担となっているアメリカ合衆国が該当する。アメリカ合衆国の医療の現状は少し細かい知識にあたるため、表中の情報のみで判断するのは難しかったかもしれない。ここでは消去法による選択が無難であるが、アメリカ合衆国が先進国の中では福祉に消極的な姿勢の国であることは知識としてもっておきたい。
- キ 医療費に占める公的支出の割合に注目すると、80.1%とかなり高いことがわかる。社会保障制度が充実していることで有名な北欧諸国のデンマークが該当する。福祉国家として、日本の数字に似ていることも一つの参考となる。
- ク GDPに占める医療費の割合、医療費に占める公的支出の割合、ともに三つの国の中で最も低い。医療が普及・発達していれば、GDPに占める医療費の割合は高くなると考えられるため、医療技術の発達がこの三つの国の中で最も遅れていると考えられるインドが該当する。問題文中にもある通り、経済状態や政治状況の違いは、こうした医療水準にも大きく関わってくるため、発展途上国のインドはこうした指標が低くなることから判断できる。

以上より、アメリカ合衆国が**カ**、インドが**ク**、デンマークが**キ**となる組み合わせの②が正解である。

(制作：吉田七海統，來住直哉)

2014 年度 センター試験 本試験 地理 B

第 6 問 地域調査（愛知県知多半島）

出題範囲	工業概論，人口，貿易，地形図，地図・地理情報
難易度	★★★☆☆
所要時間	8 分
傾向と対策	地形図の読み取りを中心に，日本の一地域の調査を扱った問題。センター試験の第 6 問では地理 A，地理 B 共通で毎年出題されている。他の大問と比較しても出題がパターン化されており，よく資料を読み込めば解答できるものがほとんどである。2014 年度は統計地図による出題があったが，これも思考力を磨けば正解にたどり着ける。工業や貿易に関しても大問中で問われているが，さほど難しくなく。完答したい大問である。

問 1 31 正解は②

難易度 ★★★☆☆

解説

知多半島の地勢図に関する問題。図 2 から読み取れることを素直に答えるだけでよい。

- ア 正 半島の南端部を見ると，濃色となっており，標高の高い丘陵が海岸線まで続いていることがわかる。下線部アは正しい。
- イ 誤 東海市から阿久比町^{あくいちちょう}にかけての地勢を見ると濃色の部分で隔てられており，山が続いていることはわかるが，大きく淡色で示されている部分はなく，「北東から南西方向に連続する大規模な谷」はみられない。東海市から阿久比市にかけてひと続きに見える谷もあるが，これは北西から南東の方向である。よって，下線部イは誤り。

以上より，アが正，イが誤となる組み合わせの②が正解である。

問 2 32 正解は④

難易度 ★★★☆☆

解説

知多半島における人口，人口増加率，老年人口割合の統計地図から，文章の下線部の正誤を判断する問題。この問題も，統計データを読み取れば問題なく答えられるだろう。

- ① 正 人口の統計地図を見ると，北部，中部には，8万人に近い円の大きい人口の自治体が多くなっている。よって，これは適当な文である。
- ② 正 人口増加率の統計を見る。人口の多い自治体の人口増加率を見ると，4%以上の自治体も多い。これらの地域では人口が増加傾向にあるといえ，これも適当な文である。

- ③ 正 老年人口割合の統計を見ると、南端の自治体は 26%以上と知多半島の中で最も老年人口割合が高くなっている。よって、これも適当な文である。
- ④ 誤 ^{とこなめし}常滑市は、図 2 を見るとわかるとおり、中西部にある自治体である。常滑市は、確かに人口増加率は高いが、老年人口割合は 22～26%となっており、他の自治体と比べて高齢者の割合が低いとはいえないだろう。よって、④は適当でない。正解は④。

問 3 33 正解は③

難易度 ★★★☆☆

解説

常滑市の新旧の地形図を比較する問題である。この問題も、選択肢の文章と照らし合わせて地形図をきちんと読み取れば正解にたどり着けるので、読み取る時間を短くすることを意識しよう。

- ① 正 旧地形図に記載されている^{たや}多屋東部の丘陵地の新しい地形図を見ると、確かに**知多横断道路**ができてるので、これは適当な文である。
- ② 正 旧地形図の常滑町の北西の、「とこなめ」と記載されている周辺にあった砂州やその一帯は、新地形図では**埋立地の造成によって消失**している。よって、適当な文である。
- ③ 誤 新地形図における^{ならわ}成岩街道の南部を見ると、工場は確かに建設されているが、**池は残っている**。この文は適当でない。正解は③。
- ④ 正 ^{ほんぐうさん}本宮山の西部では、新地形図を見ると愛知用水が作られ、旧地形図では針葉樹林帯だった場所も水田など**農地として整備**されている。これは適当な文である。

問 4 34 正解は⑤

難易度 ★★★☆☆

解説

空港と港湾の輸出入品目の違いに関する問題。船舶は重量のある貨物を運び、飛行機は軽い貨物を運ぶことが多いので、それを意識して考えよう。

- X 名古屋港：輸入品**が該当する。石油ガス類や原油が大半を占めている。日本が**石油資源を輸入に頼っている**ことを考えて輸出品であることはあり得ないと判断できる。
- Y 名古屋港：輸出品**が該当する。自動車や自動車の部品など、**重量のある貨物**が多い。自動車を飛行機で輸出することはないと考えられる。
- Z 中部国際空港：輸出品**が該当する。半導体等電子部品、電気回路等の機器、電気計測機器と比較的**軽い部品や機器**が主となっており、飛行機での輸出とわかる。よって、これは「中部国際空港：輸出品」である。
- 以上より、「中部国際空港：輸出品」が**Z**、「名古屋港：輸入品」が**X**、「名古屋港：輸出品」が**Y**となる組み合わせの**⑤**が正解である。

問 5 35 正解は①

難易度 ★★☆☆☆

解説

常滑市の地域調査の方法に関する問題。データとそこから得られる情報の組み合わせが正しいかを考えられればよいので、それほど難しい問題ではないだろう。

①から④の方法と情報を見ていくと、①の地形図からはこうした土管や甕^{かめ}、陶片の利用が読み取れるとは考えられないため、これが適当でない文とわかる。正解は①。他の選択肢を見ると、②は文献から歴史を読み取る、③は現地で実際に特徴を見る、④は専門家である製陶工場の人から種類を聞く、といずれも適当な記述であることがわかる。こうした地域調査方法についての問題は、しっかり読めば確実に得点できるところなので、落とさないようにしたい。

問 6 36 正解は②

難易度 ★★★☆☆

解説

窯業の工業立地分類と、表の読み取りから事業所ごとの規模を答える問題。問題文は長いですが、問われていることは非常にシンプルである。

カ 原料地が当てはまる。職員の「焼き物に使える粘土がとれたことから、窯業がおこりました」という部分から、原料の粘土のとれる土地だから窯業が興^{おこ}ったということがわかり、原料地を指向した工業として発展してきたことになる。

キ 小さいが当てはまる。表 1 の窯業・土石の欄を見ると、他の業種と比べて、従業者数と出荷額は、他の業種と比べて特出して多いわけではないが、事業所数は多いことがわかる。よって、事業所あたりの従業者数が少なく、小規模であるといえる。

以上より、カが「原料地」、キが「小さい」となる組み合わせの②が正解である。

(制作：吉田七海統，來住直哉)